

INDEX

5 TO P.C.S

年頭祈願・初荷式/知念室長が北海道で講演/第1種衛生管理者試験3人合格/長濱室長が県主催のフォーラムに/各社役員がハラスメント研修/指差し呼称強化月間実施/拓伸会が新成人に記念品/第40回工場見学会/拓伸会7社にスポーツ庁認証 etc.

12 連載「拓南余話」26

【うりづん】 おれづむ、うりづともいう。大木が潤い、麦の穂が出る時節のこと。「沖繩語辞典」(研究社)より

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖縄県那覇市豊川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

「自分のところで使うには どうしたらよいか」

改善活動をテーマに発表大会 拓伸会3社



改善活動の発表大会は、拓南製作所、拓南商事、拓南製鐵の順で連日(2月16～18日)開催された=製作所の大会会場・吉の浦会館大ホール



現場改善チーム最優秀賞・圧延A班



スタッフチーム最優秀賞・製造部圧延班

② 環境室
① 技術部
《スタッフチーム》
仲里幸氏が、作業者によって処理数量の異なる鉄筋(両先端)のフラッシングを自動で行う装置の開発(目標・50%の生産性向上)について発表した。

⑤ 製造部製鋼班
玉城壯多氏が、製造コストに占める副資材のコスト低減、電力使用量低減など製鋼工場のエネルギーコスト低

④ 営業管理部
屋嘉翔太氏が、荷札貼り替え作業減による往來時間減少、システム運用によるデリバリー担当者の負担低減など倉庫作業の効率化を報告した。(サポート・金城大氏)

③ 製造部圧延班
児玉末希斗氏が、D41・N41で慢性的に発生していた針金状の防止策などを根絶に向けての改善活動を発表した。

② 製造部圧延班
寒河江氏の講演の後、計15チームによる改善活動の発表(各13分)に移った。スタッフチーム(6チーム)、現場改善チーム(9チーム)の順で発表した。

① 製造部圧延班
入田勉氏が、ダイオキシンを除去する活性炭が原単価190円/tと高額なため、50%削減(95円/t)を目標に管理強化によるコスト削減について発表した。

第20回拓南製鐵改善活動成果発表大会が2月18日、沖縄県工業技術センター講堂で開かれた。ゲストとして、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所の真宮屋強史校長ならびに金城敦教論が臨席した。席上、八木実社長が開会あいさつに立った。

「寒河江先生は大病から回復されたばかりなので、どうかなどと思いましたが、発表を聞いてもらいたいという皆さんの思いもあってお誘いし、本日の開催となった。改善活動は当社の文化だ。足下をしつかり改善し、これから先、新しいことにチャレンジする気概で創立70周年を迎えよう。本日は、各チームの発表を大いに楽しみにしている。」

「先日行われた拓南製作所の発表大会は、かなりアップグレードしていた。4回目にして当社の5、6回目のレベルに達していた。当社の発表大会は今回、20回目となる。もはや、どこへ出しても恥ずかしくない大会だ。会場の皆さんには、他チームの発表から得たヒントを持ち帰り、それぞれの血と肉にしていってほしい。」

「拓南製鐵が2月18日、拓南商事が17日、拓南製作所が16日に職場の改善活動をテーマにした発表大会を開催した。3社が連日で実施したのは初めて。各会場で、十数チームが、PDCAを1年間回してきた改善事例を発表し、全社員(協力企業含む)、会員企業関係者、ゲストが見守った。製鐵、商事の大会では、改善指導を担当する寒河江孝志氏が講演「未来の拓南製鐵、商事を考える」を行い、「リスクに挑戦し、楽しむことが重要」と役員にメッセージを送った。古波津昇会長は3社それぞれのあいさつの中で、「各チームの発表を聞きながら『自分のところで使うにはどうしたらよいか』もじっくり考えてほしい」と強調した。

「拓南製鐵が2月18日、拓南商事が17日、拓南製作所が16日に職場の改善活動をテーマにした発表大会を開催した。3社が連日で実施したのは初めて。各会場で、十数チームが、PDCAを1年間回してきた改善事例を発表し、全社員(協力企業含む)、会員企業関係者、ゲストが見守った。製鐵、商事の大会では、改善指導を担当する寒河江孝志氏が講演「未来の拓南製鐵、商事を考える」を行い、「リスクに挑戦し、楽しむことが重要」と役員にメッセージを送った。古波津昇会長は3社それぞれのあいさつの中で、「各チームの発表を聞きながら『自分のところで使うにはどうしたらよいか』もじっくり考えてほしい」と強調した。

「拓南製鐵が2月18日、拓南商事が17日、拓南製作所が16日に職場の改善活動をテーマにした発表大会を開催した。3社が連日で実施したのは初めて。各会場で、十数チームが、PDCAを1年間回してきた改善事例を発表し、全社員(協力企業含む)、会員企業関係者、ゲストが見守った。製鐵、商事の大会では、改善指導を担当する寒河江孝志氏が講演「未来の拓南製鐵、商事を考える」を行い、「リスクに挑戦し、楽しむことが重要」と役員にメッセージを送った。古波津昇会長は3社それぞれのあいさつの中で、「各チームの発表を聞きながら『自分のところで使うにはどうしたらよいか』もじっくり考えてほしい」と強調した。

製造部圧延班(スタッフ)と 圧延A班(現場)に栄冠

拓南製鐵



古波津会長あいさつ=県工業技術センター講堂

《スタッフチームの部》



技術部 仲里幸氏 環境室 入田勉氏 製造部庄延班 児玉未希斗氏 営業管理部 屋嘉翔太氏 製造部製鋼班 玉城荘多氏 加工センター 松本浩氏

《現場改善チームの部》



製造部庄延班C班 古市純也氏 技術部 宮城大晴氏 製造部製鋼班(取鍋) 大村隆仁氏 製造部庄延班A班 池原琉星氏 製造部製鋼班(炉前) 島袋陸飛氏 製造部庄延班B班 小渡啓登氏 製造部石灰工場 松田智喜氏 製造部製鋼班(CCM) 花城喜昭氏

《1頁より》
減について発表しました。(サポート・比嘉洸太氏)
⑥加工センター
松本浩氏が、クレーム発生を受け、短尺品についての応急対策、パトライト取付位置の改善、リレージョイント架台変更など生産効率化について報告した。(サポート・比嘉太陽氏)
《現場改善チーム》
⑦製造部庄延班C班
古市純也氏が、ネジテック用トラフの取り外し・設置にかかる時間の短縮(43分↓21・5分)、トラフの定位置化を目標とした負担軽減について発表した。(サポート・宮山雄大氏)
⑧技術部
宮城大晴氏が、契約電力超過防止などのために担当者が行っているデマンド(30分平均使用電力)監視を自動制御にする改善について発表しました。(サポート・長嶺宜由氏)
⑨製造部製鋼班(取鍋)
大村隆仁氏が、3社技術交流会に参加して空冷防熱扉の情報交換を行うなど取鍋メカ防熱扉の改善に向けた活動を報告した。(サポート・池原星希氏)
⑩営業部
島田和幸氏が、スクラップ原料による装入山が原因となる操業時の不具合(電力使用量増加)を改善する活動について報告した。(サポート・井内隼氏)
⑪製造部庄延班A班
池原琉星氏が、スタッカー下降後、結束機までの搬送中に起きるD16後端飛び出

しの撲滅について発表しました。(サポート・新里健氏)
⑫製造部製鋼班(炉前)
島袋陸飛氏が、電気炉炉蓋のオーバーフロー管ホースを詰まらせてしまう細かい鉄スクラップの撲滅について報告した。(サポート・上地皓介氏)
⑬製造部庄延班B班
小渡啓登氏が、先端が曲がる、端面がつぶれる、搬送遅れで短く切断するなど、ロールシャワーによる製品重ね切りによる問題点の改善について発表した。(サポート・上原幹大氏)
⑭製造部石灰工場
松田智喜氏が、破砕室の作業環境改善活動、事務所などの3S活動、作業手順書作成活動など、今までの活動の改善後維持管理について報告

挑戦し、楽しもう

した。
⑮製造部製鋼班(CCM)
花城喜昭氏が、「より安全に、より楽に、快適に」をテーマにしたCCM周辺作業の改善、製品サンプル採取場の改善、高速カッター周辺の改善等について発表した。(サポート・古波津寛一氏)
品重ね切り対策」
☆奨励賞
製鋼(取鍋)
「取鍋メカ防熱扉の改善」
石灰工場
「今までの改善活動の改善後の現状(維持管理)」
両チームの各賞発表後、表彰式が行われ、八木社長が、表彰状と記念品を受賞者に贈呈した。
続いて、寒河江氏が講評した。
「皆さんの発表は素晴らしい内容だった。なぜ素晴らしいか。それは、皆さんが現場をよく見ているからだ。観察している。どう対応していくかをよく考え、改善を繰り返している。この20年間、皆さんは、そんなトライ・アンド・エラーを繰り返して、維持してきた。もはや、真似のできないレベルに達している。世界に誇れると思う。失敗の数ほど、皆さんのレベルを上げる。失敗したものも、会社のノウハウ、皆さんの技術力となる。そこを間違えないでほしい。失敗は必ず役に立つ。やってみないと分からないことが工場にはいっぱいある。いろいろなこと挑戦し、楽しんでほしい」
閉会あいさつは、知念正元副社長が務めた。
「とても良い発表大会だった。皆さんはとりわけ、品質、安全、作業負担に取り組みんでいた。当社は、中部事業所に移転して31年になるが、昔からあった問題点も、今回の大会ではテーマとして出てきたように思う。営業管理部の発表の中に「荷札貼り替え作業減」があったが、長い間、懸念となっていたテーマだ。営業管理部にはその改善をあきらめることなく、来年度もこのテーマに取り組んでもらいたい。現場、現物、現実という三現主義を活用しながら、なんとかかなんだという気持ちで改善活動を進めてもらいたい。来年の大会も期待している」
司会は、マーケティング推進室の富永達也課長が務めた。

アルミ選別班 最優秀賞に 拓南商事

第9回拓南商事改善活動発表会が2月17日、うまし健康福祉センターうるみんで開かれた。
席上、福本将希常務(工場長)がステージに立ち、「これから全部署15テーマの発表がある。内容をしっかり理解し、明日からの改善活動に生かし、必ず実践してほしい」と開会宣言した。
続いて、川上哲史社長があいさつに立った。
「改善活動では、ベテランと新人の社員がお互いの気づきを確認し合う。そこで会話が生まれ、信頼、信用につながっていく。当社は『人材の強化、域内経済を全うする』を年度方針に掲げているが、まさに人材の強化だ。改善活動を通して、皆さん一人一人

①ELV班

が成長していくことを願っている」
寒河江氏の講演の後、15チームによる改善活動の発表(各10分間)に移った。
平良桜羅氏が、粉砕機内部・コンベア下にたまる破砕プラ、ダクトの清掃作業をしやすくするため5つの課題



E.L.V.班
平良桜羅氏



O.A.班
下里智寛氏



シュレッター班
大嶺安弘氏



最優秀賞・アルミ選別班
最優秀賞・アルミ選別班



アルミ選別班
大城信也氏



炭素化施設班
桃原隆氏



家電班
長嶺孝哉氏



ガス切断班
小浜守人氏



鉄屑加工班
仲宗根司氏



購買班
石山正樹氏



ガス切断班
小浜守人氏



ノロ処理班
佐久川隆次氏



清掃班
仲間徳正氏



業務班
知念華代子氏(左)、有銘七美氏



工務班
大城裕貴氏



企画開発室
桃原絵理花氏

に14回実施した改善活動を発表した。(サポート・玉城杏樹氏)

②O.A班
下里智寛氏が、荷物によ

て何回も行う計画、雨天時の陥没現象、出入口が1カ所だけなどの課題の改善によるお客様回転率の向上を報告した。(サポート・玉城杏樹氏)

桃原隆氏が、オイルスキマの油回収効率を高めるため、ポンプを運転し循環噴射させておく改善活動について発表した。(サポート・仲宗根英樹氏)

課題になっているギロチン下に落下するスクラップに対して、「じま板」取り付けによる改善活動を報告した。(サポート・東門希竜氏)

一定の場所へ運搬する際に想定される緊急事態の対応策について発表した。(サポート・中村慎之介氏)

化、業務効率改善の事例を発表した。(サポート・高江洲革子氏)

べーションが起きる。繰り返しを積み重ねていくと、拓南商事の宝に必ずなっていく。小さな改善でも繰り返しすることで効率上がり、会社

③シュレッター班

大嶺安弘氏が、狭い場所での引き出し作業やキャスター上での転倒リスクなど問題点がある土砂ガラスフレコン交換の改善について発表した。(サポート・名嘉洋人氏)

④アルミ選別班

大城信也氏が、トロンメル(ふるい)の工程で長物が刺さりコンベアを切断するトラブルに対し、コンベア破損ゼロ、生産向上を目指す改善活動を報告した。(サポート・新垣良子氏)

⑤炭素化施設班

渡名喜豊氏が、昨年の労働災害をきっかけに、通常業務・非常業務から腰痛リスクがある作業を洗い出して取り組んだ腰痛対策を発表した。(サポート・山下航平氏)

⑥家電班

長嶺孝哉氏が、冷蔵庫ライオン更新に伴う改善(メーカー指摘に対する改善、PSプラ異物除去作業、暑さ対策など)について報告した。(サポート・上地正人氏)

⑦堅型シュレッター班

佐久川隆次氏が、専用ビツトからノロを回収して既

⑧鉄屑加工班

名嘉山正樹氏が、2台体制で行っている折南製鐵への出荷の効率化に向けて課題を洗い出し、大幅なレイアウト変更・設備投資の必要性を報告した。(サポート・中村慎之介氏)

⑨購買班

知念華代子氏、有銘七美氏が、新社屋での営業を機

効果は数値で見えるように

各賞の審査が行われ、結果発表の後、川上社長が表彰した。

「改善活動については今後も『なぜなぜなぜ』をもっと追究し、推し進めてもらいたい。効果の確認については、数値で見える化してほしい。金額ベースで出すことを標準化してほしい」とアドバイスした。

続いて、寒河江氏が講評した。「皆さんが、改善を繰り返しているのが素晴らしいと思つた。発表の中には、14回も繰り返したチームもあった。改善を繰り返すとイノ

☆最優秀賞

アルミ選別班
「アルミ選別ラインMIXメタル内の長物対策」

☆優秀賞

企画開発室
「ヒヤリハット報告の活用に向けての改善」

☆優良賞

家電班
「冷蔵庫ライン更新に伴う改善」

☆敢闘賞

E.L.V.班
「破砕機内部の清掃改善」

☆安全褒賞

ノロ処理班
「緊急事態の対応について」

表彰を終えた川上社長は

みんなが笑顔に

その後、「特別発表」として、第6回リサイクルアート展のエントリー作品(全15作品)が上原大樹氏によって紹介された。

審査結果は次の通り。

最優秀賞「モノレール切符とシャボ「美ら海ビーチ増設

中」上地英泉氏(製造部シュレッター班) 4頁参照/優秀賞「拓南のエンブレム」有銘七美氏・高安萌江氏・金城美羽氏(営業部業務課)/優良賞「ハーリー船」名城謙氏(営業部資源回収班)

閉会あいさつは平田要副



最優秀賞・鐵構事業所鐵構部B班

「印象に残ったことを数点挙げたい。家電班の発表の中で、冷蔵庫ラインを参考に...

最優秀賞は鐵構部B班に

拓南製作所

ことがうれしかった。リサイクルを通して家族が会話を重ね、絆を深めてくださって...



リサイクルアート展の最優秀賞

第4回改善活動成果発表大会が2月16日、吉の浦会館大ホールで開かれた。

早い枕木から変形が少なく安定性が高い日鋼への置き換えによる耐久性の向上と...

「発表チームが多くて休憩時間を取りにくくなるほど、皆さんはどんなテーマを出して改善に取り組んでいる。

③鐵構事業所成形部門 知念和也氏が、吊り材の絡みを解消すべく「流れる、そ...

本日は、各チームの発表を聞きながら感心するだけでなく、「自分のところで使うにはどうしたらよいかも考えてほしい。

④鐵構事業所鐵構部A班 砂川卓磨氏が、リモコン操作による開閉速度アップなど...

①防錆事業所準備前処理班 城間政人氏が、作業の効率化、番線の使用量減少に向けて...

⑤管理本部管理部 永吉鈴奈氏が、「探さない、迷わない、困らない」をテーマに...

②防錆事業所仕上げ班 金城将氏が、腐食・劣化が

⑥営業本部営業部 渡嘉敷幸貞氏が、10月から全員で入力を開始した「新・



⑦鐵構事業所与那城出張所 平良虹輝氏が、定められた歩行スペースが工場内にな...

⑧鐵構事業所鐵構部A班 砂川卓磨氏 ⑨鐵構事業所鐵構部B班 城間政人氏 ⑩鐵構事業所成形部門 知念和也氏...

⑪鐵構事業所鐵構部B班 城間栄亮氏が、「欲しい図面がすぐに見つからない」という課題改善のため、紙からデータへ図面管理の効率化...

「発表内容のレベルが上がってきた。PDCAを回す改善の手法の理解も少しずつ深まっている。今後、発表大会は回を重ねていくわけだが、当面はあまり背伸びせず、皆さんが身近で行っている業務について何か問題が...

日の出を背に年頭祈願・初荷式

伏見稲荷・産業之宮で 拓伸会

拓伸会および協力企業合同による年頭祈願および初荷式が1月5日早朝、拓南製鐵本社で行われた。晴天に恵まれ、式典中、東に昇る太陽と西に沈む月を同時に確認できた。



日の出を背に修祓の儀

念頭祈願は、伏見稲荷・産業之宮で行われ、拓南製鐵、拓南商事、協力企業の社員約350人が参加し、式典の模様を会員企業へリモート配信した。式典では、沖宮の上原神職

が修祓の儀、献饌の儀、祝詞奏上を行い、拓伸会の古波津昇会長、拓南製鐵の八木実社長、拓南商事の川上哲史社長、拓伸商事(大阪)(福岡)の大城秀政社長、鐵鋼処理産業の宜本徹社長、泉産業の泉川綾香社長、小湾運送の伊佐

指差し呼称の徹底から

拓伸会会長 古波津昇

この立派な日の出が象徴するように、すばらしい仕事始めになった。今年も激動の年になるといわれている。しかし、私たちはこれまで、どのような逆境でも創業者の考え方を継承し、乗り切ってきた。厳しいときほど強くなれる企業だ。どんな逆境になろうとも

しつかりと踏ん張って、事業を伸ばしていく。1月には、指差し呼称の徹底を拓伸会の最重要事項としている。今年も皆さんが事故やケガなく就労できるような、また、皆さんのご家族が健康に暮らせることを祈念している。

70周年の年、果敢に挑む

拓南製鐵社長 八木実

今年、当社は創立70周年を迎える。創業者や先輩方への畏敬の念を大切に、時代の変化にスピード感を持って対応する。そして、足下の改善、将来に向けての改革に取り組んでいく。厳しさが予想さ

れる今年、みんなで果敢に挑みたい。そのためには、安全第一、健康第一だ。自分のために、ご家族のために、みんなのために、拓伸会一丸となって頑張っていく。

健康診断の数値改善へ

拓南商事社長 川上哲史

当社は数年前から、他のリサイクル企業にはないお客

様へのサービスを強く意識した改革に取り組んできた。

新たな挑戦を続けていく

拓南製作所社長 奥平 勉

本年も、これまでの事業をしつかりと土台にし、新たな挑戦を続けていく。建設分野では、工期短縮に貢献するSIMデッキについて、より安定した品質と供給を実現できるよう製造技術の確立と体制づくりを進める。木造住宅基礎川ユニット鉄筋については、評定の取得を目指し、信頼性を高めることで販路拡大を進めていく。さらに農業分野では、関係機関と連携しながら、新たなハウス工法など将来性のある分野への挑戦を続ける。今年も、安全第一、品質重

視の基本姿勢は変わらない。当たり前のことを当たり前に続けていく。その積み重ねが結果として大きな信頼と成果につながるはずだ。

来年の70周年に向けて

拓伸商事(大阪)社長 大城秀政

当社は、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所の皆様へ資材、機械、部品などを遅滞なく供給できるよう日々努力している。昨今、特にレアメタルの供給がままならない環境下にあるが、今年も、しつかり対応できるように努めたい。大阪、福岡、薩南物産の拓伸会県外3社が情報をしつ

から共有し、皆様が生産する商材、加工品などを取扱できるような今年も努力する所存だ。会社内では、健康宣言を行い、それが乗じて仕事にも身が入る雰囲気になっている。来年の創立70周年に向けて、今年も今年でもあるので、しつかりと明るく駆け抜けていきたい。

新春の朝日を浴びながら

式典はその後、拓南製鐵の松井太郎副社長による「社訓唱和」が行われた。年頭祈願の司会は、拓南本社総企画画面上原康志部長が務めた。終了後、初荷式に移った。参加者は、正門周辺へ移動

し、原料入荷と鉄筋出荷の「初荷」のトラック列に向けて大きな拍手を送った。新春の朝日を浴びながらの門出となった。初荷式の司会は、拓南製鐵営業本部営業部の比嘉正毅次長が務めた。



古波津会長による年頭訓辞



初荷式

拓伸会の魅力を 北海道で発信

知念室長が特別講義
北見工大

12

拓南本社技術開発研究室の知念響室長が昨年12月17日、北見工業大学(北海道北見市=北海道東部に位置する人口約12万人のオホーツク圏最大の都市)で特別講義「金属工学の鉄筋製造への応用」を行った。産学連携により、北海道の次世代技術者に拓伸会の魅力を発信する初の機会となった。人事部の比嘉洋輔次長も同行し、採用に関する企業PRを行った。そこで、知念室長、特別講義を企画した北見工大の河野義樹准教授、比嘉次長に寄稿してもらった。(敬称略)



次世代技術者に直接アプローチ

拓南本社技術開発研究室室長 知念 響

2025年12月、北海道の北見工業大学にて、機械・電気系の学生の皆さんを対象に「金属工学の鉄筋製造への応用」と題した特別講義を行いました。

(今回の講義は、かつて(株)日本製鋼所で入社同期だった河野義樹准教授からの依頼がきっかけとなりました。現在は学術の道で強度発現の数値シミュレーションを行っている彼から、「企業で活用されている金属工学の考え方を紹介してほしい」と声をかけられました。

このような講義は技術的な対外発信になるだけでなく、技術者を志す大学生に直接アプローチできる貴重な機会にもなりますので、技術講義に加えて人事部による企業PRの時間も設けていただくことを条件に、お引き受けしました。

講義では、大学で学ぶ金属工学が製造プロセスの理解にどうつながっているのか、以下の3つの事例を中心に解説しました。

① エリンガム図を用いた溶鋼精錬の熱力学的理解

電気炉およびLFD炉でスラグを形成し溶鋼の純度を上げる過程は、不純物元素が酸化物を形成する過程でもあります。図1のエリンガム図では酸化しやすい元素ほど下側にありますが、スラグに分配される不純物元素は鉄よりも下側に位置していることが分かります。一方

で、有害元素とされる銅(Cu)や鉛(Pb)は上側に存在するため、酸化物として分離、除去することが困難であるという熱力学的な原理を説明しました。

② 状態図に基づいた組織制御

圧延後の冷却過程は、材料の強度や伸びを決定づける重要な組織変化の場となります。一見すると単に冷えていくだけの工程で、どのような組織が形成されるのかを説明し、また図2の状態図を利用することで、組織変化がある程度予測できることを説明しました。

これまでの自社研究で、鋼材中に存在するバナジウム炭化物は高強度鉄筋の強度発現と強く関係することが分かっています。一般にこのような炭化物は、そのサイズが微細であるほど鋼材を強化する性質を持ちます。このため、冷却時に既存のバナジウム炭化物の成長よりも「新しいバナジウム炭化物の核生成」を優先させる制御が重要となります(図3)。この核生成を促進させる手段として、圧延前の加熱段階でバナジウムを鉄中に固溶(固体状態)で鉄原子とバナジウム原子が混じり合う現象させることが有効という、組織制御の考え方を解説しました。

③ 785MPa級高強度鉄筋における強度発現メカニズム

2025年12月に知念博士に講演をしていただき、弊学学生に貴重な勉強の機会を与えていただきました。この場をお借りして、知念博士、講演の助けをさせて頂いた人事部の比嘉様、ならびに拓南グループの関係者の皆様に謝意を表します。

以下では、本講演に至った経緯について簡単に説明させていただきます。

知念博士と私は(株)日本製鋼所の入社同期で、その当時から仲良くさせていただいております。私は数値シミュレーションを用いて材料の微視組織に依存した機械的性質の発現機構を明らかにする研究に従事しており、大学では工業材料学の講義を担当しております。

学生にはより新鮮で実践的な内容も教えてあげたい

と事業の成果に対して遠回りに見えるかもしれせん。しかしながら、今回人事部と取り組んだように、学生を含む学術機関への対外発信を続けることは、最終的に拓伸会の理念に共鳴する次世代の技術者をひきつけることにつながると考えています。

講演の御礼 業界発展を祈念

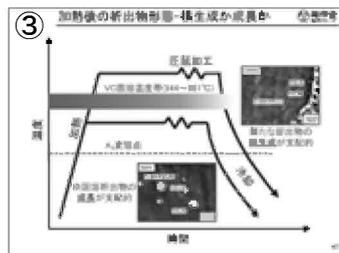
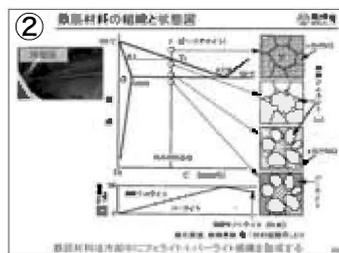
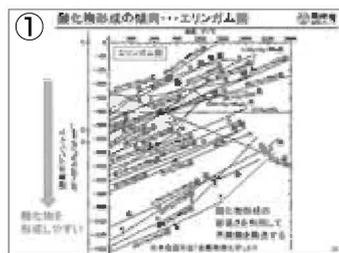
北見工業大学機械電気系准教授 河野義樹

2025年12月に知念博士に講演をしていただき、弊学学生に貴重な勉強の機会を与えていただきました。この場をお借りして、知念博士、講演の助けをさせて頂いた人事部の比嘉様、ならびに拓南グループの関係者の皆様に謝意を表します。

以下では、本講演に至った経緯について簡単に説明させていただきます。

知念博士と私は(株)日本製鋼所の入社同期で、その当時から仲良くさせていただいております。私は数値シミュレーションを用いて材料の微視組織に依存した機械的性質の発現機構を明らかにする研究に従事しており、大学では工業材料学の講義を担当しております。

学生にはより新鮮で実践的な内容も教えてあげたい



と事業の成果に対して遠回りに見えるかもしれせん。しかしながら、今回人事部と取り組んだように、学生を含む学術機関への対外発信を続けることは、最終的に拓伸会の理念に共鳴する次世代の技術者をひきつけることにつながると考えています。

は鉄鋼材料の基礎的で大切な事項を網羅的に、かつ企業の実践的な仕事のお話も含めて話していただきました。講演会を聴講した学生からは、実践的な内容に高評価のコメントが届いております。

このような取り組みは地道ではありますが、我々の業界や分野を若い世代に伝え、維持・発展させていくためには重要であり、産学の両者にとって利があると私は考えております。

講演当日は北海道のオホーツク地域といえども12月としては異例の寒さ、最低気温マイナス20度でした。過酷な場所への出張となるため再度お願いすることは忍びないのですが、今後も、拓南グループ様と北見工大との縁が続くことを祈念して、結びとさせていただきます。

今回の講演会では、材料について普段はあまり馴染みのない機械・電気系の学生が対象であるため、知念博士に

と事業の成果に対して遠回りに見えるかもしれせん。しかしながら、今回人事部と取り組んだように、学生を含む学術機関への対外発信を続けることは、最終的に拓伸会の理念に共鳴する次世代の技術者をひきつけることにつながると考えています。



入稻福氏(本社)、山川氏、宮里氏(製鐵)

第1種衛生管理者試験(厚労省)合格

拓南本社の入稻福裕氏(安
全統括室)、拓南製鐵の山川
文誠氏(製造部主任副班
長)と宮里夏希氏(環境室)
が12月から今年2月につ
て、厚生労働大臣の国家資格
である第1種衛生管理者試
験に合格した。

同試験は、関係法令、労働
衛生および労働生理の幅広
い知識が求められ、合格には
高い理解力と継続的な学習
が必要とされる。

安全衛生関係資格取得を
稿してもらった。

業務に生かしたい一心で

拓南本社安全統括室 入稻福 怜



1月末日に第1種衛生管
理者免許試験を受験し、合格
することができました。

合格の要因は、テキストを
1年ほど前に安全統括室
へ異動となった際に、衛生管
理者の試験に興味を持ち、取
得して業務に生かしたい一
心で受験を決定しました。

今後は、職場環境の改善や
健康管理の向上に少しでも
貢献できるよう取り組んで
いきたいです。

周りに支えられ取れた喜び

拓南製鐵製造部主任副班長 山川文誠

昨年11月1日に行われた
第1種衛生管理者試験に合
格することができました。

私は製造部所属で、圧延の
仕事を日々続ける一方、自分
のスキルアップも含め、現在
ばかりでなく将来に向けて
自分になにかできることが
あれば挑戦したいと、自分の

歳を忘れて常に考えていま
した。

そんなとき、「衛生管理者
の仕事に興味はないですか、
試験を受けてみませんか。今
やっている仕事内容が問題
されるわけだから。大丈夫
だよ」との声がかかりました
ありがたいお誘いを受験を

拓南製鐵から2氏

那覇商工会議所

永年勤続表彰

那覇商工会議所は2月13
日、令和7年度永年勤続優良
従業員表彰式を沖縄ハーバ
ービュホテル(彩海の間に
開いた。

拓伸会関係者は、拓南製鐵
の仲村将氏(20年8カ月)、池
田雄貞氏(18年8カ月)の2
氏が表彰された。

とで、15年間を振り返る良い
機会となりました。今後も仕
事にまい進していきたいと
思いますので、よろしくお願
い致します」と感想を述べた。



表彰状を手にする仲村氏

決意しました。

しばらく身が入らない
日々が続きましたが、ある
時、試験内容を知ってびっく
りました。



合格を励みに貢献したい

拓南製鐵環境室 宮里夏希

今回、第1種衛生管理者試
験学習を進めるうえで、いろ
んな方の応援や励ましの
言葉をいただきました。今後
は、その思いを無駄にせず精
進いたします。

日々の環境室業務と並行
しての学習で大変でしたが、
試験に合格することができ
ました。

試験勉強を通じて、労働安
全衛生に関する知識を学ぶ
良い機会となり、理解を深め
ることができました。



今回の合格を励みに、今後
も幅広く知識の習得に努め
ながら、より安全で快適な働
きやすい職場づくりに少し
でも貢献できるよう頑張り
たいと思います。



表彰状を手にする仲村氏

採用に関する企業PRも

拓南本社人事部次長 比嘉洋輔

今回、講話内にて採用に関
する企業PRの場を設けてい
ただいた河野准教授、知念室
長に深く感謝申し上げます。

材料力学などの基礎的な
工学知識と、当社の実務を結
びつけた講義と企業PRを通
じて、工学知識が実際のもの
づくりにどのように生か
されているかを紹介できま
した。

長濱室長本社がトークセッションに

沖縄県主催「健康経営フォーラム」

「健康経営の推進・安全衛
生活動の充実・働き盛り世代
の健康づくり」を目的に沖縄
県主催の「健康経営フォーラ
ム」が2月3日、沖縄県立博

物館・美術館講堂で開かれ
た。トークセッションでは、
拓南本社安全統括室の長濱
直次室長が、他3人の登壇者
(ルネサンス執行役員の樋口
毅氏、りゅうせき建設社長の
安慶名健氏、ホウゴ事業統括
の玉城和弥氏)と議論を繰り
広げた。

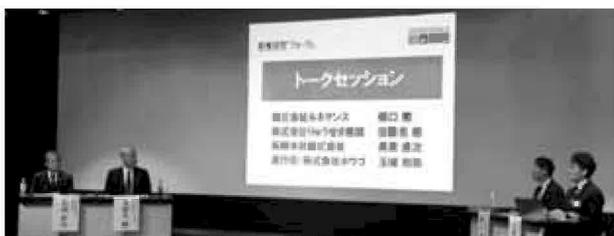


長濱直次室長(写真提供:りゅうせき建設・前田崇氏)

トークセッションは、各登
壇者の自己紹介のあと、司会
者が質問する方式で、登壇者
が、健康づくりについての経
過と現状、これからの健康経

営施策をそれぞれ解説した。
長濱室長は、拓伸会の企業
理念である「拓鐵興疏」のも
とに、古波建会長が目指して
いる100年企業への人づく
りの中で、2020年から
継続して計画的に取り組ん
できた健康づくりと各種成
果についてデータをもとに
説明した。

会場には、県内の経済団
体、企業、市町村の経営者・
健康経営担当者、人事労務・
安全衛生担当者など約12
0人が参加した。フォーラム
終了後、主催者事務局に「非
常に参考になった」「もっと
詳しく聞きたかった」などの
声が多数寄せられた。



県主催「健康経営フォーラム」=県立博物館・美術館講堂



「沖縄タイムス」1月21日付

各社役員がハラスメントを学ぶ

拓伸会役員互助会

2

拓伸会役員互助会が2月14日、ハラスメントをテーマにした勉強会を拓南製鐵2階大会議室で開いた。社会保険労務士の井上秀文氏を講師に招いた。拓伸会会員企業の執行役員以上が出席した。今回の勉強会は役員向けだが、拓南本社業務部の喜屋武智部長が「ハラスメント研修」を以前に企画し、社員向けに本社をはじめ各社で展開してきた。3月は、拓南商事や東外会員企業とのハイブリッド形式で開催を予定している。そこで、喜屋武部長に寄稿してもらった。

より良い職場環境づくりを

拓南本社業務部長 喜屋武 智

拓伸会役員互助会の勉強会として、社会保険労務士の井上秀文氏を講師にお招きし、「ハラスメント研修」を2月14日に実施しました。勉強会に先立ち、互助会の川上哲史会長が「開会あいさつで企業活動においては、人と人との信用が大事。役員共通の認識、課題を共有して社員と信頼をつくりあげていこう」と強調しました。続いて、井上氏に、ハラスメントに関する講演をしていただきました。



職場におけるハラスメントには、セクハラ・パワハラ・マタハラ等ありますが、各種のハラスメントが原因となり、休職や退職、最悪の場合には自殺に至る例もあり、業務災害にかかる精神障害の労災認定の件数も年々増加しているそうです。中でも、パワハラ(パワーハラスメント)は、上司からの指示命令が「指導」なのか「ハラスメント」なのか明確に区分しにくいことや、経てきた時代背景の違いによる世代間の考えの相違などから自覚がまま放置されやすく、結果的に重度化してしまったり、業務へ悪影響を及ぼすといった状況になりやすいとのことでした。パワハラは、上司から部下だけではなく、同僚同士、あるいは部下から上司へなど、だれもが加害者・被害者になれます。

井上氏は、職場におけるパワハラを防止し、職場内でよりよい関係を築いていくための知識や情報、コミュニケーションスキルなどについても説明してくださいました。



指差し呼称強化月間を実施

拓伸会安全衛生管理者等連絡会議

1 2

拓伸会各社の安全衛生管理者等で構成する「拓伸会安全衛生管理者等連絡会議」(約20名)は、昨年1年間に発生した労働災害の発生状況等の分析結果から、「指差し呼称」を実施して行動すれば防げた災害が多数あったことを確認し、全社を対象に、今年1月1日〜2月末までの全期間を「拓伸会指差し呼称強化月間」として役員員に指差し呼称の実行を求めた。

1月末現在の各社の中間報告(実施状況)は下記の通り。

【拓南本社】

朝礼時に「拓伸会行動規範」を片手に持って、全員で指差し唱和を実施し、指差し呼称の重要性を確認している。

SDGsの目標のうち、8番目には「デセント・ワーク(働き甲斐のある人間らしい仕事)」の項目があります。

「指差し呼称」の項目があり、安心して働ける職場づくりを実現するため、参加してください。また、より良い職場環境づくりのきつかけになればと思います。

今回は役員・執行役員対象でしたが、ハラスメントのない職場づくりを目指すため、階層別(管理職や一般社員等)のハラスメント研修を今後も実施していきます。



▼拓南本社

【拓南製鐵】

通年指差し呼称の実施率を毎週の定例会報告において各部署から報告を求め、役員員の意識付けと形骸化にならないように取り組みを行っている。1月の実施状況は次のとおり。

1月	1〜2週目	全体
	3週目	全体
	4週目	全体
	全体	868583%

▼拓南製鐵

【拓南商事】

中村明史安全衛生委員会委員長(製造部次長)を講師として全役員約210人(人)を対象にした指差し呼称の指導を行った。

【拓南製作所】

全役員約150人のヘルメットに、新たに作った意識啓発用の「指差し呼称シール」を貼付し、意識強化の取り組みを行っている。



▼拓南商事



▼拓南製作所

【西原グリーンセンター】

全役員約20人)は、「指差し呼称」の黄色いリボンを着け、指差し呼称の完全実施に取り組んでいる。



▼西原グリーンセンター

【陸南物産】

指差し呼称をする個所を増やすとともに、重機、フォークリフト、トラック、営業車面などにも指差し呼称のプレート(約35人)に指差し呼称の徹底を呼びかけている。



▼陸南物産

△トラック

△重機

△フォークリフト

△役員・営業車両

効果が表れて1月はゼロ災

拓南本社安全統括室事務局員 入稻福 怜

「指差し呼称強化月間」が始まって1カ月が経過しました。各社の取り組みの結果、1月の新規労働災害発生件数は0件、ゼロ災でした。昨年12月末までは毎月のように大なり小なりの災害が発生の報告が本社事務局に挙がっていたのですが、1月の結果を見ると「指差し呼称」の効果が確実に表れています。

運動の継続で、2月も労働災害が発生せず、各社ゼロ災1000日を目標に継続できたらうれしいです。

西原G.C.でAED講習会

拓南本社

1

拓南本社安全統括室は1月21日、西原グリーンセンター(西原G.C.)と拓南製作所から要望を受け、西原G.C.の1F会議室で、社員やお客様が心肺停止、呼吸停止等になった場合の救命処置として正しい知識とスキルを身につけることを目的に、1次救命処置およびAEDの使用方法に関する社員講習会を開催した。参加人数は西原G.C.4人、拓南製作所4人、テナント様1人の計9人。那覇市応急手当普及員(インストラクター)の資格を昨年9月(うま)の資格を昨年9月(うま)に取得した安全統括室の長澤孝之主任と入稻福怜氏が担当した。講習を実施した長澤孝之、

新成人たちに記念品贈呈

拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所

拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所は1月、新成人(2005年4月2日〜翌年4月1日生まれ)への記念品(トベルトバッグ)贈呈式をそれぞれ行った。各社の新成人のコメント、各社社長の祝辞は次の通り。

◎拓南製鐵(1月22日)

我那覇史恵さん

「これから、いろいろなことに挑戦し、頑張っていきたいと思います」

池原星希さん

「まだまだこれから仕事を頑張ります」

「お祝いの言葉 八木実社長」

新成人の皆さん、おめでとうございます。大人として自立へのスタート、常に素直な気持ちと感謝の気持ちを忘れないでください。30年後、皆さんは50歳で、拓南製鐵は創業100周年を迎えます。若い皆さんの飛躍を期待し、そして一緒に歴史を築いていきたいと思います。

◎拓南商事(1月15日・19日)

安里伶児さん

「成人式を終えて、大人への第一歩として、これから頑張っていきい大人になって頑張っていきたいと思います」

上地太陽さん

「新成人としての責任を自覚し、皆様と協力して頑張ります」

上地正人さん

「ここまで育ててくれた家族に感謝し、成人になったので一生懸命頑張っていきたいと思います」

金城琉晴さん

「これまで支えてくれた周り



(左)我那覇史恵氏、(右)池原星希氏



記念品を手に(左より)上地正人氏、上地太陽氏、金城琉晴氏、安里伶児氏



記念品を手に前里奏心氏

を担う存在へ成長していくことを、会社全体で応援していきます。

◎拓南製作所(1月20日)

鳥袋 悠さん

「指示を待つ姿勢から一歩進み、自分で考え行動し、日々の仕事に取り組みます」

上里優太さん

「成人になったという自覚を持ち、これからも学び続け、皆さんに信頼していただけるよう頑張ります」

「お祝いの言葉 奥平勉社長」

新成人の皆さん、誠におめでとうございます。これから、自分一人の力だけでなく、仲間と支え合いながら前に進む姿勢が大切になります。相手を思いやる心や感謝の気持ちを忘れず、悩みや迷いは一人で抱え込まず、周囲に相談してください。人によかれという思いは信頼と協力を生み、視野を広げ、より



(前列左より2人目)鳥袋悠氏、(同3人目)上里優太氏

良い判断につながります。皆さんのこれからの活躍を心より期待しております。

主任、受講した西原GCの渡慶次春菜氏の感想は次のとおり。

正確に伝える努力を続けたい

拓南本社安全統括室主任 長澤孝之

那覇市消防局で救命救急普及員資格を取得後、初めて登壇し教える立場として臨んだ講習である。限られた時間の中で救命救急の大切な効果的な胸骨圧迫を伝えることは難しく、言葉の選び方や説明のスピードなど準備段階から苦労した。しかし、受講者の皆さんが真剣に取り組んでくださり、講習はスムーズに進行し、「分かりやすかった」「次年度以降も教えてほしい」との感想をいただけたことは大きな励みとなった。しかし、反省点は多くあったので、最新の知識を正確に伝える努力を続けたい。救急



西原GC1 階会議室で講習会

定期的な受講がとても大切

西原グリーンセンター 渡慶次春菜

AED講習会に参加しました。AEDの使用方法や胸骨圧迫の方法などの説明を

私は毎年参加しているのですが、胸骨圧迫の実践は想像以上に体力が必要で、声かけの順番等に戸惑い、パニックになってしまいました。いざというときにパニックにならないため、定期的に講習を受けることはすごく大切だと思います。

胸骨圧迫やAEDの操作が必要な事態が来ないことが一番ですが、緊急時に冷静に行動できるための心構えをしていきたいと思います。



心肺蘇生法とAED操作の実践

コロナ禍後最多の493人見学

第40回工場見学会 拓伸会

拓伸会は2月13日、第40回工場見学会を開催した。リサイクルを通して、ゼロエミッション社会の実現に貢献しているグループ各社の活動を広く周知するのが目的で、年に2回(2月・5月)に実施している。コロナ禍後、最多の493人が見学した。ディレクターを務めた拓南本社総合企画部企画管理課の平田星来氏に見学会を振り返ってもらった。

2月工場見学会を振り返って

拓南本社総合企画部企画管理課 平田星来

前週末での冷え込みも和らぎ、当日は快晴のもと、第40回拓伸会工場見学会を開催いたしました。

予約数515人のうち493人にご参加いただき、当中金庫様をはじめ多くの企

業の皆様にお越しいただきました。団体としてりゅうせき様、千葉県から浦安鉄鋼団地協同組合U・i・n・g様にご参加されました。金融業および建設業の参加が多く見られた半面、学生の参加は前年より減少いたしました。



プラスチックインジェクション装置を見学会で初の実演

業の皆様にお越しいただきました。団体としてりゅうせき様、千葉県から浦安鉄鋼団地協同組合U・i・n・g様にご参加されました。金融業および建設業の参加が多く見られた半面、学生の参加は前年より減少いたしました。

バス運行を改善

これまで大型バス5台体制で運行しておりましたが、新たに中型バス(約25名乗り)を1台追加し、計6台体制としたことで、遅延時にも柔軟に対応できる体制を整えることができました。また、中型バスの導入により、構内での切り返しやトラック往来時の安全性も向上しました。

さらに、人員削減および業務効率化のため、駐車場係とヘルメット係の役割を午前・午後で分担する体制を実施いたしました。あわせて、駐車場誘導員の配置場所や

初めてのディレクター

私が工場見学会の運営に関わるのは、今回で3回目に



T-コンフォートの特長をしっかりと説明

SIMデッキを見学会で初めて展示

役割を明確化し、初めての試みでしたが当日は大きなトラブルもなく、円滑に運営することができました。見学者の皆様からは、バス移動によるスムーズな見学や、説明の分かりやすさについて多くのうれしいお言葉をいただきました。特に、バス運行には細心の注意を払っていたこともあり、大きな励みとなりました。一方で、製鐵現場では、説明が聞きづらいたのご意見もあり、今後もさらなる改善に努めてまいります。



OBの皆さんが地域の方々と話して見学

当しておりました。今回、初めてディレクターを務め、WGメンバーや各取引会社の皆様に対し、事前調整や確認事項、各種依頼まですべてを担いました。不慣れな中で、重責に多くの不安もありましたが、WGメンバーや総合企画部の支えもあり、大きなトラブルなく運営を終えることができましたことに感謝しております。一方で、設営時には初めて参加するスタッフへの配慮が十分ではない場面がありました。また、全体把握という点でも、改善の余地があると感じております。今回は、スタッフへの配慮に加え、全体状況を常に確認しながら行動し、より円滑な運営ができるよう取り組んでまいります。

創業の志を盛り込む

最後に、今回、バス添乗員川の新ナリオに、拓南グループに込められた思いや歩みを盛り込んだことを報告させていただきます。その作業のなか、創業当時の志や思いが現在の拓伸会へつながっていることを改めて実感し、誇りに感じました。今後も、工場見学会を通して、創業者の思いと拓南グループの仕組みをお客様に伝えていきたいです。

「安全」「健康経営」活動も

見学前プレゼンテーションで

拓南本社安全統括室



拓南製鐵 2階会議室で

今回の工場見学会で、拓南本社安全統括室は、拓南グループが取り組んでいる「指差し呼称強化月間」と「健康経営」について内閣府沖繩総合事務局経済産業部、厚生労働省沖繩労働局、ハローワーク那覇、ハローワーク沖繩、沖電工、伊藤製鐵所の見学者に見学前プレゼンテーション(約15分)を行った。長濱直次安全統括室長が担当し、解説後、見学者から「なぜ全社で統一した取り組みができていたのか」「目標が達成できていた秘訣は」などの質問も受けた。

*ハローワーク沖繩所長の本村英希氏、沖繩総合事務局経済産業部企画振興課長の宮平勉氏、伊藤製鐵所筑波工場販売業務部製品課担当部長の島袋寿一氏、今帰仁村出身、県立開邦高校、横浜国立大工学部卒後、伊藤製鐵所入社)に工場見学の感想を寄稿してもらった。

鉄くずが110メートルの鉄筋に



ハローワーク沖繩所長 本村英希氏

今回、拓南商事と拓南製鐵の工場を見学する機会をいただきました。拓南グループ内で、県内で発生した鉄くずや自働車・家電を回収して原



「スポーツエールカンパニー 2026」取得

拓伸会7社にスポーツ庁認証

拓伸会の7社(拓南本社、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所、西原グリーンセンター、拓伸商事(大阪)、薩南物産)は1月30日、スポーツ庁(河合純一長官)が実施する「従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積

スポーツも親しめる職場環境へ

拓南本社安全統括室

「働き盛り世代」のスポーツ実施率を改善するため、職場で朝や昼休みなどに体操・ストレッチをするなどの運動機会の提供や、階段の利用や徒歩・自転車通勤の奨励、あるいはスタンディングミーティングの実施など、スポーツ競技に限らず、社員の健康増進のためスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業に対し「スポーツエールカンパニー」としてスポーツ庁が認定するものです。

2017年から始まった制度ですが、全国における認定数は年々増加し、本年度は過去最多の1635団体が認定されました。沖縄県は16社の認定となっています。拓伸会は県内で5社、大阪府で



午後1時過ぎの時間にストレッチ体操を楽しむ吉屋武業務部長(左)と又吉史也氏



1社、鹿児島県で1社が認定されました。拓伸会はこのからも、社員の健康を経営資源としてとらえ、戦略的に健康づくりに取り組む「健康経営」をさらに進化させ、従業員がスポーツも親しめる職場環境づくりに進めてまいります。



(左から)森永美智代氏、松元真理子氏、金田温子氏、新原佑季子氏、朝山由紀子主任、久保雅史課長代理

薩南物産有志が南薩摩路を完歩

第34回いぶすき菜の花マーチ

九州南部における拓伸会の拠点・薩南物産は、鹿児島県内の鉄スクラップを沖繩へ、沖繩で製造された鉄筋を鹿児島で販売しているが、健康経営優良法人認定を2年連続して取得するなど社員の健康づくりに継続して取り組んでいる。その薩南物産の有志6人が2月8日、ウォーキング活動と社員の交流を兼ねて、「薩摩半島最南端、美しい自然とおもてなしのまち・指宿」(敬称略)

冷えと疲労を湯で

製造課課長代理 久保雅史

この冬一番の冷え込みとなり強風と雪。ともあれ南国育ちの私は、ちらつく雪に少しばかり興奮気味に。帰りは温泉天国・鹿児島島の湯で冷えと疲労をいやし、心地よい休日となりました。

参加者が

6人に増えた

営業統括部主任 朝山由紀子

昨年初参加した菜の花マラソンは冷雨でしたので、今年が「快晴」を期待しての参加ですが、この冬の寒波、「吹雪」になりました。でも、参加者が2人から6人に増え、楽しくウォーキングのでうれしかったです。

ホツカイロ6枚貼って

製造課 金田温子

10キロコースを歩きました。雪雨、風も強く、寒すぎた。雪温は0度。カッパにホツカイロを6枚貼り、完歩。コースの雪景色がきれいで忘

られない1日でした。

参加を決めて

体力づくり

製造課 新原佑季子

菜の花マーチ参加を決めてから、体力づくりのために休みの日に歩くようになりました。当日はあいにく吹雪でしたが、楽しい思い出となりました。

これを機に歩きたい

営業統括部 松元真理子

今回5キロコースに参加しました。悪天候の中、貴重な経験をさせていただきました。普段歩いていないのが、これを機に歩くようになっています。

菜の花のほが雪に

原課長 森永美智代

菜の花を愛でながら歩くはずが、雪で足取りは遅くなり、追い越されましたが、忘れられない5キロを歩き終え、熱いスープでホツカイロの気分になりました。



新たな気づきになった

沖繩総合事務局経済産業部企画振興課長 宮平勉氏

材料にし、鉄鋼の製造やその他の製品に加工するという環境に配慮したりサイクルの輪をつくっていることを知り、感銘を受けました。なかなか見ることのできない解体の現場や鉄製造現場をナマで見ることができて、胸が高まるものがありました。鉄くずが110メートルの鉄筋になるとは。鉄は、最も身近で日常生活から切り離せない金属であります。その鉄を沖繩で唯一製造する企業として、今後ますますの発展を期待します。

今回、沖繩総合事務局経済産業部から私と部内の新人・若手職員を含め計9人参加させていただきました。当部は、沖繩の産業振興に取り組みしている部署ですが、入部当初は、製造業者の製造現場や製造工程を間近で見ることがなかなかなく、縁あつて沖繩を代表する製造業者である御社の工場を見学する機会に恵まれました。

見学会後に「とても良かった」という感想が多く聞かれ、新たな気づきになったかと思えます。私自身も、御社の工場には久しぶりの訪問で、サキエコノミィや「健康経営」に対する積極的な取り組みに刺激を受けた次第です。拓南グループのますますの発展を祈念いたします。本日はありがとうございました。ごさいました。



同業の視点から拝見

伊藤製鐵所筑波工場販売業務部長 島袋寿一氏

この度は、御社工場見学の機会を賜り、誠にありがとうございます。弊社も茨城県つくば市にて、御社同様スクラップから鉄筋を製造しており、同業の視点から拝見し、大変感銘を受けました。経営理念や健康経営への取り組みに加え、各所で説明くださった社員の皆様のご丁寧なご対応から、御社の日頃の取り組みが感じられ、感服いたしました。今回の学びを持ち帰り、今後に生かしてまいります。

